



第3章 歴史資料・災害資料の保全・活用

吉川, 圭太
木村, 修二
奥村, 弘
古市, 晃

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 18 (2019 (令和元) 年度事業報告書) :51-52

(Issue Date)

2020-03-22

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012155>



第3章

歴史資料・災害資料の保全・活用

歴史資料ネットワークへの協力・支援

1. 災害対応

歴史資料ネットワーク等と協力して、2018年西日本豪雨の被災資料保全の支援を継続するとともに、2018年台風21号で被災した大阪上本町T家土蔵の歴史資料の現状記録・レスキューを大阪市立大学、大阪歴史博物館等と連携して実施した。また、東日本に甚大な被害をもたらした2019年台風19号災害では、歴史資料ネットワーク等と協力して、長野、栃木において被災歴史資料の保全活動を支援した。

(文責・吉川圭太)

2. 神戸市兵庫区平野地区における活動

本年度も「奥平野古文書勉強会」が毎月1回(第2日曜)開催され(8月は休会)、すべての例会で木村がチューターを行った。

(文責・木村修二)

石川準吉関係資料の調査

朝来市生野町出身で企画院官僚を経験し、国家総動員史の編集を担い、生野代官所等の研究者でもあった石川準吉氏が残した史料について、整理と写真撮影をすすめた。また本史料中、官僚期の

史料及び国家総動員史関係史料の保存先として、奥村弘地域連携センター副センター長が、国立歴史民俗博物館との調整を行った。

(文責・奥村弘)

附属図書館震災文庫への協力

本学の震災復興支援・災害科学研究推進室からのサポート経費に基づき、災害資料学の実践的研究を附属図書館とともに行なった。

本年度は「第9回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会」(2020年1月31日、於社会科学系図書館)を開催し、東日本、熊本の公立図書館及び大学図書館、国立国会図書館などからの参加を得て、震災資料の公開活用に関して意見交換を行った。前日の1月30日には、神戸市灘区・東灘区内において阪神大水害、阪神・淡路大震災のモニュメント及び関連施設のフィールドワークを実施した。

また、附属図書館震災文庫の協力を得て、2019年3月末には「阪神・淡路大震災を撮る一大木本美通追悼写真集一」を刊行したほか、第6回全国史料ネット研究交流集会(2020年2月8・9日、於御影公会堂)に「阪神・淡路大震災を撮る一大木本美通写真展一」を出展した。震災を体験していない世代が資料研究・歴史研究の手法によって震災資料を活用し、震災の記憶を継承していくために、神戸大学文学部学生による震災資料調査研究を踏まえた震災資料展「草の根市民

メディアからの発信―「ミニコミ」から問う阪神・淡路大震災」(2020年1月16日～2月4日、於附属図書館社会科学系図書館2階)を開催した。

(文責・吉川圭太)

人文学研究科古文書室の所蔵文書整理

今年度は事業として行っていない。

(文責・木村修二)

国立歴史民俗博物館の共同研究

1. 『聆濤閣集古帖』の総合資料学的研究への参加とシンポジウムの開催

摂津国菟原郡呉田(ごでん。現神戸市東灘区)豪商・吉田家が蒐集した古器物、古文書などの研究を、(一般社団法人)住吉歴史資料館と共に進めている。

2017年度より、国立歴史民俗博物館において開催の標記共同研究(代表・藤原重雄氏 東京大学史料編纂所)に共同研究者として参加し、2019年12月1日には、神戸大学大学院人文学研究科、国立歴史民俗博物館、住吉歴史資料館の主催でシンポジウム「住吉の豪商・吉田家のお宝―まぼろしの聆濤閣コレクション―」を白鶴酒造株式会社本社会議室にて開催し、最新の成果を市民に還元している。

(文責・古市晃)